

18世紀ヨーロッパ生活絵引

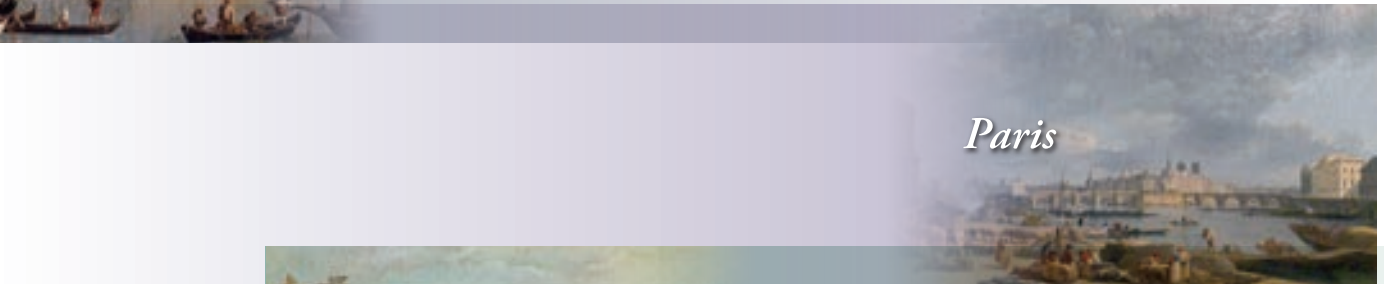
都市の暮らしと市門、広場、街路、水辺、橋

Pictopedia of Everyday Life in Eighteenth-Century Europe:

City People and Their Gates, Squares, Streets, Waterfronts, and Bridges



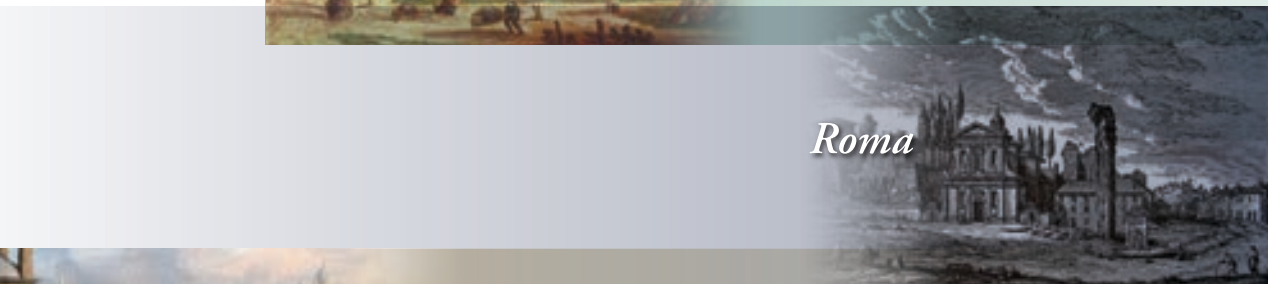
Venezia



Paris



München



Roma



London



Wien



神 奈 川 大 学
日本常民文化研究所

非文字資料研究センター 第2期研究成果報告書

Report on the Results of the Second Stage Research
Research Center for Nonwritten Cultural Materials,
Institute for the Study of Japanese Folk Culture, Kanagawa University

18世紀ヨーロッパ 生活絵引

都市の暮らしと市門、広場、街路、水辺、橋

Pictopedia of Everyday Life in Eighteenth-Century Europe:
City People and Their Gates, Squares, Streets, Waterfronts, and Bridges



神 奈 川 大 学
日本常民文化研究所

非文字資料研究センター

まえがき

ヨーロッパでは、16世紀のオランダで、都市とそこに生きる人々の様子が絵画に描かれ始めた。18世紀になると、このような関心と画法が他のヨーロッパ諸都市についても発揮されるようになる。その結果、18世紀ヨーロッパのいくつかの都市と人々については、当時の画家たちが描いた絵画や版画が、いわば同時代の証言記録として残っている。本書は、そのような同時代の記録としての絵画・版画を利用しながら「絵引」のかたちを整えたものである。題して『18世紀ヨーロッパ生活絵引』という。書名については多少の注釈が必要だろう。

「18世紀」については、フランス革命が勃発（1789年）する前の1700年代全体を指している。本書にいう「18世紀ヨーロッパ」は、社会が激変する以前のヨーロッパである。

「18世紀ヨーロッパ生活」が都市だけを扱うものになっているのは、ヨーロッパが何よりも都市を中心に発展してきたからである。都市の生活ぶりを見ることによって、われわれはヨーロッパについて重要な洞察を得ることができる。

「18世紀ヨーロッパ」を一握りの都市に代表させているのにも理由がある。1つの重要な理由は、この絵引に取り上げた都市——ロンドン、パリ、ミュンヘン、ウィーン、ヴェネツィア、ローマ——については、景観や生活を見せる絵画や版画がわりあい多数残されているからである。これらの都市は、何らかの点で同時代の画家たちの関心を引いたのである。関心を引いた理由は一様でない。それは、建物の立派さであったり、繁栄する様子だったり、特徴的な生活ぶりだったりした。

「絵引」は、具体的には、①図版、②図版に描かれているものの細部にわたる名称、③図版の内容についての解説、から成り立っている。図版として載せたのは、都市の景観と生活の両方を同時に見せるような、同時代に描かれた絵画・版画である。図版の細部におよぶ名称は、日本語と英語と原語とによる呼称を載せている。読者は絵から名称を知ることができ、索引を利用して名称から具体物の画像を見ることができる。図版の解説は、絵画・版画が全体として何を描いているのか、そして、どの点に注目すべきかについて述べている。

すでにお分かりのとおり、この本は、絵画・版画的図版をかなり多数収録しているけれども、美術画集ではない。また、この本は美術史でもない。これは文化史的・社会史的な本である。

18世紀のヨーロッパ都市の景観の多くは、その後に消滅したり変化したりして、絵画や版画的のなかにしか姿を残していない。都市に生きた人々の暮らし方もまたその後変化して、絵画や版画的のなかにしか姿を残していない。この「絵引」のなかには、今は無いヨーロッパがあり、貴重である。

一部の例外はあるけれども、18世紀ヨーロッパの都市民は、高く厚い市壁に防御された都市のなかに暮らしていた。多くの都市は川沿いに発達した都市で、河川は、ものの輸送にも、飲料水を得るためにも、防御堀としても必要不可欠な存在だった。都市の街路は一般に表面が下水路を兼ねていて不衛生だった。下水の流れ込む川から得る水も、不潔な飲料水だった。このような共通する特徴を持ちながらも、それぞれの都市と都市生活には豊かな個性があった。以下の「絵引」にも、ヨーロッパ都市の共通性と個性の両面が見られるだろう。

この絵引は、神奈川大学の非文字資料研究センターで2011年度からおこなってきた近代ヨーロッパの都市生活に関する共同研究の、最初のささやかな成果である。共同研究のメンバーは以下の4名である（アイウエオ順）。姓名と専攻分野を掲げる。

- ◆熊谷 謙介 フランス文学、表象文化論
- ◆小松原 由理 美学、前衛芸術思想史
- ◆ステファン・ブッヘンベルゲル 比較文学、ドイツ文学、ミステリー
小説・漫画の研究
- ◆鳥越 輝昭 比較文学、比較文化史

これら4名が以下のように地域を分担した。

- ◆熊谷 謙介 フランス語圏
- ◆小松原 由理 北ドイツ語圏
- ◆ステファン・ブッヘンベルゲル 南ドイツ語圏
- ◆鳥越 輝昭 イタリア語圏、英語圏

以下の頁では、執筆部分を名字で記す。なお、小松原は、事情があつて、この絵引は執筆できなかった。

文部科学省が世界的研究を進める拠点を形成するために実施した「21世紀COEプログラム」に、神奈川大学は「人類文化研究のための非文字資料の体系化」を研究目標として申請し、2003年に採択された。非文字資料研究センターは、この21世紀COEプログラムの研究成果を継承・発展させる目的で、神奈川大学日本常民文化研究所の付置研究機関として2008年4月に発足したものである。「生活絵引」は、COEプログラム遂行時から重要な事業として継続的に編纂・出版がなされてきた。すでに『日本近世・近代生活絵引』の北海道編、北陸編、東海道編、奄美・沖縄編や、『東アジア生活絵引』の中国江南編と朝鮮風俗画編、『マルチ言語版日本常民生活絵引』第1巻～3巻ならびに語彙編がある。本書は、ヨーロッパに関する最初の「生活絵引」である。

編集作業にあたり、非文字資料研究センターの北田昌代氏と小林響子氏にたいへんお世話になったので、感謝する。

2015年3月

『ヨーロッパ近代生活絵引』

編纂共同研究

代表者 鳥越輝昭

18世紀ヨーロッパ生活絵引

目次

まえがき	i
第1章 市門	
18世紀ヨーロッパ都市の門（概説）	002
18世紀パリの市門	004
1. 物売りの賑わい——「サン＝ドニ門」	004
2. 売春婦の移送——「サン＝ベルナル門」	008
18世紀ミュンヘンの市門	010
3. 厳重な防御——「シュヴァビンガー門」	010
18世紀ヴェネツィアの市門	014
4. 海からの玄関口——「聖マルコの入り江」	014
18世紀ローマの市門	016
5. 北ヨーロッパからの入口——「ポポロ門」	016
第2章 広場	
18世紀ヨーロッパ都市の広場（概説）	020
18世紀ロンドンの広場	022
6. 市民自治の中心——「ギルドホール」	022
7. 世界の商取引の中心——「ロイヤル・エクスチェンジ」	026
8. 市場と娯楽——「コヴェント・ガーデン」	028
9. 高級住宅地の広場——「ハノーヴァー広場」	032
18世紀パリの広場	034
10. 皇太子誕生を祝う民衆的祝祭——「中央市場」	034
11. サント＝ジュヌヴィエーヴ聖堂起工の祝典——「パンテオン広場」	038
18世紀ミュンヘンの広場	040
12. 食物市場だった頃の「マリエンプラッツ」	040
13. 市役所前の食物市場	044
18世紀ウィーンの広場	046
14. 芝居も飲食も広場で——「ショッテン広場」	046
15. 青物市場だった広場——「グラーベン広場」	050
16. 商業に賑わう広場——「シュトック・アム・アイゼン広場」	052
17. 宗教行事の場——「ショッテン広場」	056
18. 市場の開かれる広場——「ショッテン広場」	058
19. 上流階級の散策の場——「アウガルテン」	062

18 世紀ヴェネツィアの広場	064
20. 世界経済の昔の中心 — 「リアルト小広場」	064
21. 生活と娯楽の場 — 「聖マリア・フォルモーザ小広場」	068
22. 商売と娯楽の場 — 「ピアツェッタ（聖マルコ小広場）」	070
23. 祝祭の場 — 「クエリーニ小広場」	074
18 世紀ローマの広場	076
24. 巡礼と政治の中心 — 「聖ピエトロ大聖堂とヴァティカン宮殿」	076
25. 巡礼都市の教会 — 「サンティッシマ・トリニタ・デイ・ペッレグリーニ教会」	080
26. 商品売買の場 — 「ロトンダ広場」	082
27. 放牧の場としての古代遺跡 — 「フォロ・ロマーノ」	086
28. 放牧地に近い大聖堂 — 「聖マリア・マッジョーレ大聖堂」	088
29. 観光客の少ない名所 — 「トレヴィの泉」	092
30. 祝祭の場 — 「ポポロ広場」	094

第3章 街路

18 世紀ヨーロッパ都市の街路（概説）	100
18 世紀ロンドンの街路	102
31. メインストリート — 「チープサイド通り」	102
32. 金融都市の象徴 — 「イングランド銀行」	106
33. 横町の集合住宅 — 「ボーフォート・ビルディングズ」	108
18 世紀パリの街路	112
34. カーニヴァル — 民衆的な界限	112
35. 市場の賑わい — 「グラン・シャトレ」	114
36. 邸宅の建築現場 — 「フォーブール・サン＝ジェルマン地区」	118
37. 芝居小屋 — 「サン＝ロラン大市」	120
18 世紀ウィーンの街路	124
38. 高級商店街 — 「コールマルクト通り」	124
18 世紀ヴェネツィアの街路	126
39. 水のメインストリート — 「大運河」	126
40. 水のメインストリートでの催し物 — 「レガッタ」	130
41. 庶民生活の場 — 「メンディカンティ小運河」	134
18 世紀ローマの街路	136
42. 教会の町の街路 — 「ジュリア街」	136

第4章 水辺・橋

18 世紀ヨーロッパ都市の水辺・橋（概説）	140
18 世紀ロンドンの水辺・橋	142

43. 交通運輸路としての川 — 「テムズ左岸」	142
44. 祝祭も川で — 「テムズ川」	146
45. 交通の要路 — 「ブラックフライヤーズ橋」	148
18 世紀パリの水辺・橋	152
46. パリ遠望 — 「ラペ河岸」	152
47. パリの心臓 — 「ポン・ヌフ」と「サマリテーヌ揚水所」	156
48. 船乗りたちの水上槍試合 — 「ノートルダム橋」と「両替橋」	158
18 世紀ミュンヘンの水辺・橋	162
49. 川に守られた都市 — 「ミュンヘン遠望」	162
50. ビールで交歓 — 「筏師の料理屋」	164
18 世紀ウィーンの水辺・橋	168
51. 川沿いの宮殿 — 「遊園付きアルタン伯爵邸」	168
18 世紀ヴェネツィアの水辺・橋	170
52. 海軍国の施設 — 「アルセナーレ（海軍造船所）」	170
53. 商業路としての橋 — 「リアルト橋」	174
18 世紀ローマの水辺・橋	176
54. 川の貨物港 — 「リペッタ港」	176

付録

1. 18 世紀のヨーロッパ都市概説	180
18 世紀のロンドン	180
18 世紀のパリ	180
18 世紀のミュンヘン	181
18 世紀のウィーン	182
18 世紀のヴェネツィア	182
18 世紀のローマ	183
2. 画家一覧・略歴	184
3. 参考文献一覧	188

索引

・ 日本語	190
・ 英語	201
・ フランス語	212
・ ドイツ語	215
・ イタリア語	219



【図版解説】

18世紀ローマの「フォロ・ロマーノ（フォルム・ロマーヌム）」の様子が描かれている。ローマでは、18世紀以後風景が変化していない場所も多いのだが、「フォロ・ロマーノ」は大きな変化が生じた場所である。この版画は、今は見ることのできない風景を記録していて、貴重である。

画中左端の教会は、今は無い「聖マリア・リベラトリエ教会」であり、その右側の3本の円柱は「カストルとポルクスの神殿」の遺跡である。画面左側に連なる建物の背後に木々を見せているのは、「パラティーノの丘」である。左側に立ち並ぶ建物のいちばん奥に見える円筒形の建物は、「聖テオドーロ教会」である。

絵は、右から4分の1あたりに小高く盛り上がっている「アヴェンティーノの丘」を見晴らしている。「アヴェンティーノの丘」には、修道院らしい建物が描かれ、その左側に市壁らしいものが描かれている。修道院はマルタ騎士団のヴィラで、市壁はアウレリアヌスの市壁だろう。市壁には塔が設置されているのが見える。

「フォロ・ロマーノ」は、古代ローマの政治の中心地区だったが、18世紀には荒廃して久しかった。古代の遺跡に関心は持たれていたものの、発掘が進むのは19世紀になってからである。現在見られる遺跡のほとんどは、18世紀にはまだ、この版画に見られるように、土の下に埋もれたままだった。今は高く聳えている「カストルとポルクスの神殿」の3本の円柱も、版画のなかでは、半ばが地中に埋もれている。

18世紀には、このあたりの場所はまだ主として牛の放牧地として使われ、「牛の野原（カンポ・ヴァッ

チーノ）」と呼ばれていた。この絵のなかでも、画面左手前の泉では、数頭の牛たちが水を飲んでいるし、右端では、牛たちが干し草の山を引っ張っている。泉があるのは、20世紀になって「クルティウスの亀裂」の遺跡が発掘される場所である。泉の右脇には小川が見えるが、これは古代ローマの下水道「クロアカ・マキシマ」に流れ込んでいた。

地面には、遺跡の破片らしい石がたくさん転がっている。画面右端の柵は、羊の群れを囲い込むためのもので、なかには多数の羊たちがいる。

画面左側に立ち並ぶ建物も、そしてやや右奥に立ち並ぶ建物も、集合住宅として使用されているようである。19世紀以後の発掘作業のなかで、これらの建物は取り壊され、その下に埋まっていた古代の遺跡が地表に出されることになる。

この絵に描かれている「聖マリア・リベラトリエ教会」も20世紀初め（1902年）に取り壊され、現在は、その下に埋まっていた「聖マリア・アンティクア教会」が地表に現れている。聖マリア・アンティクア教会は6世紀に建てられた教会だったが、やがて廃墟となり、その上に建てられたのが聖マリア・リベラトリエ教会だった。創建は13世紀で、18世紀に改修され、版画ではバロック様式のファサードを見せている。

18世紀には、英国などの上流階級の若者たちが、古典教育の仕上げのためにローマを訪れた。いわゆる「グランド・ツアー」である。画面手前の右から3分の1あたりに描かれている、コート姿の3人連れは、グランド・ツーリストたちだろう。彼らは、この場所を、牛の放牧地としてよりも遺跡と捉えて、古代に思いを馳せているようである。〔鳥越〕



27. 放牧の場としての古代遺跡——「フォロ・ロマーノ」

【部分名称】

1. フォロ・ロマーノ	Roman Forum (英)	Foro Romano (伊)
2. 聖マリア・リベラトリチェ教会	Church of Santa Maria Liberatrice (英)	Chiesa di Santa Maria Liberatrice (伊)
3. ファサード	façade (英)	facciata (伊)
4. 円柱	column (英)	colonna (伊)
5. ペディメント	pediment (英)	frontone (伊)
6. 遺跡	remains (英)	resti (伊)
7. 泉	fountain (英)	fontana (伊)
8. 雄牛	ox (英)	bue (伊)
9. まぐさ石	lintel (英)	architrave (伊)
10. 煙突	chimney (英)	camino (伊)
11. パラティーノの丘	Palatine Hill (英)	Colle Palatino (伊)
12. 木	tree (英)	albero (伊)
13. 家	house (英)	casa (伊)



【図版データ】

1. 作者：Giovanni Battista Piranesi
2. 画題：Veduta del sito, ov'era l'antico Foro Romano
3. 制作年：1760-1778
4. 所蔵場所：The British Museum
5. クレジット：© Trustees of the British Museum

14. 聖テオドーロ教会	St. Theodore's Church (英)	Chiesa di San Teodoro (伊)
15. アヴェンティーノの丘	Aventine Hill (英)	Colle Aventino (伊)
16. 市壁	city wall (英)	muro (伊)
17. 塔	tower (英)	torre (伊)
18. 干し草	haystack (英)	pagliaio (伊)
19. 牛飼い	herder (英)	pastore (伊)
20. 杖	cane (英)	bastone (伊)
21. 地面	ground (英)	terra (伊)
22. 遺跡の断片	pieces of ruins (英)	pezzi di ruine (伊)
23. 小川	stream (英)	ruscello (伊)
24. 柵	fence (英)	recinto (伊)
25. 羊	sheep (英)	pecora (伊)
26. 観光客	tourists (英)	turisti (伊)
27. コート	coat (英)	redingote (伊)



**Pictopedia of Everyday Life in
Eighteenth-Century Europe:**
City People and Their Gates,
Squares, Streets, Waterfronts,
and Bridges



神 奈 川 大 学
日本常民文化研究所

非文字資料研究センター

Research Center for Nonwritten Cultural Materials,
Institute for the Study of Japanese Folk Culture, Kanagawa University
〒221-8686 神奈川県横浜市神奈川区六角橋 3-27-1

■Tel.045-481-5661 ■Fax.045-491-0659 ■URL <http://himoji.kanagawa-u.ac.jp/>

ISBN 978-4-904124-20-8C